

竜宮再建のお話し

<いきさつ>

南五味塚地区の開栄町の公園は、昔から「竜宮さん」と呼ばれ尊ばれてきた。かつては一本松が目印であり、祠もあり、南御見東神社の御鋤祭り、鯨船祭りの際は地元民により提灯、幟で飾られ祭事が行われてきた。

しかし、伊勢湾台風で祠が流され、近年では祭りを守る開栄町住民の高齢化が進み、特に幟立てが木製の重い幟のままでは、祭り継続が無理ではないかと問題提起がなされた。

そこでまず、なぜ「竜宮さん」と呼ばれているのかという素朴な疑問に突き当たり、「竜宮さん」の意味合いをもう一度考えてみることになった。楠町史を読み解き、この地が神武天皇東征軍の一部が上陸した場所と伝わることや祭神とされる綿津見命が海の守護神として尊崇され、漁民の多い南五味塚では「竜宮様」として豊漁を祈願する宮となり、祭日神事として鯨船行事が始まった由。このいきさつを記したのが公園に新設した看板「竜宮さんの由来」である。一度お読みいただきたいものである。



「竜宮さんの由来」の看板



移設したブランコから見た「竜宮さん」の建設現場

<再建着手>

さて竜宮再建には、まず幟を地元民で建てられるようにしないといけないが、費用はどうするのという問題と並行して、もともとあった祠はどうするのか、祠ができるなら鳥居も必要ではと熱い語らいの中で、「竜宮再建委員会」が組織され、南御見東神社、南楠鯨船保存会、南五味塚連合自治会で構成された。各委員の伝統文化継承に対する強い思いがこの事業を後押ししたのであった。

始めに着手したのが、祠設置場所の確保で既設のブランコ、鉄棒の移設である。市公園課と話し合いを持ち、ブランコを母親の目の届きやすい位置へ配置換えを行った。

<再建費用>

「竜宮再建委員会」からのお願いという形で、自治会員の皆様に寄付をお願いしたところ、こころよく多額の寄付をいただき工事に着手することができた。さらに不足分は委員会の3団体が応分の負担をすることとした。

<再建開始>

そこでまずは早々に必要なアルミポール製の幟の製作に着手、このとき提灯建ての穴も新設、続いて祠さらに鳥居も新設して、神社の体裁を整えたのである。この工事には専門業者の協力がかかせないが、地元の大重建築さんが仲間とともに何から何までやっていただきスムーズに完成にこぎつけることができた。感謝!